

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

- ①乳幼児期、幼少期、学齢期とそれぞれのライフステージで子どもの環境が変化の中で、切れ目ない支援をするため、関係者の連携体制を構築していく
- ②子どもの個性や特性を大切にしながら、一人ひとりの成長に応じて、持っている力を十分発揮できるように0歳から概ね18歳まで、関係機関が連携し適切な支援を進めていく

成果

- ①「元気っ子応援事業」として、相談・支援事業を実施するとともに、各関係機関とネットワークを構築し、子どもに対して切れ目ない支援をすることができた。
- ②今後も、不登校、ゲーム依存、学習障害等、多岐にわたる課題についても関係者で連携し、包括して対応していく。関係者内の情報共有のシステム構築を検討し、横のつながりをさらに深めていく。

事業内容

保健、福祉、医療、教育などの専門職がチームとなり、ライフステージごとに、必要に応じた相談の機会、支援メニューにつなげる。子どもたちが「社会を生き抜く力」をつけられるよう、母子保健から保育園・幼稚園、学校、社会へと支援を繋げていく。

- ① 0歳から18歳までの子どもの総合相談窓口である部署にて、担当相談員が中心になり情報集約するとともに関係機関と支援メニューをコーディネートし、継続的に相談、支援、調整を行った。
- ② 幼少期での健診等の記録、保育園等での成長の記録、小中学校での個別の教育支援計画等を、コーディネート部署にて個人ごとに保管、支援に活用するとともに、各機関同士で引き継ぎをした。
- ④ 市民及び関係者に向け、発達支援に係る講演会、研修会を実施した。

